



成隣だより

令和8年1月31日
第10号
昭島市立成隣小学校
校長 松川 靖弘
TEL 042-541-0068



HPはこちら

立春の光と、次なるステップへの準備

副校長 川上卓哉

寒さ厳しい季節が続いておりますが、子供たちの元気な姿に春の訪れを感じる日々です。2月、今年度も残すところあとわずかとなり、子供たちはまとめとともに、次の学年へ向けた準備を着々と進めています。6年生にとっては卒業が間近となり、これまでの学びの集大成を意識する時期でもあります。保護者の皆様、地域の皆様には、これまでの温かいご支援に心より感謝申し上げます。

さて、2月と言えば「立春」を迎えます。今年は2月4日がその日に当たります。暦の上ではこの日から春が始まるとされており、厳しい寒さの中にも、日差しが少しずつ力強さを増していく時期です。かつてはこの立春が一年の始まりと考えられていたため、冬から春へと移り変わるこの節目は、人々にとって新年を迎えるような清々しく、かつ重要な決意の時でもありました。

また、この時期に吹く強い南風を「春一番」と呼びます。春一番は、冬の冷たい北風から、暖かな春の空気へと入れ替わる合図です。この風が吹くと、一時的に気温が上がり、植物たちが芽吹く準備を一気に加速させます。厳しい冬の寒さに耐え忍んできた草花が、目に見えないところで根を張り、春の訪れとともに一斉に花開こうとする姿は、今の子供たちの成長の様子とも重なって見えます。

立春を過ぎると、徐々に昼の時間が長くなり、自然界は生命力に溢れ始めます。「春」という言葉の語源には、草木の芽が「張る」ことや、天気が「晴れる」ことなど、前向きな意味が多く込められているそうです。現代の学校生活においても、この2月はまさに、これまでの努力が形となり、次のステージへと大きく飛躍するためのエネルギーを蓄える大切な期間と言えるでしょう。



2月は1年のまとめとともに、新しい自分を形作る準備の季節です。これまでの歩みを振り返りながら、新しい春、来年度がより良いものとなるよう、希望を持って過ごしてみたいかがでしょうか。学校では子供たちとともに、残りわずかな今年度を大切に過ごし、期待に満ちた新学年を迎えられるよう努めてまいります。